



イギリス・ リーズ大学を訪れて

UNIVERSITY OF LEEDS

工学部機械工学科

米倉 大介 よねくら だいすけ



リーズはイングランド北部、地図でいえば大ブリテン島のほぼ真ん中に位置する街です。リーズの街は金融・商業の中心的な都市として現在急速な発展を続けており、街の中心部では今も新しい建物が次々と建設されています。またリーズにはサッカーのLeeds Unitedをはじめ、ラグビーやクリケットなどのプロスポーツチームが存在し、試合の日にはパブで中継を見ながら大騒ぎをするのが住民の恒例行事となっています。リーズ大学はそのような活気にあふれた市街を見下ろす丘の上にあります。

私はこのリーズ大学に2003年4月から1年間、2つのプロジェクトに関するResearch Fellowとして研究に携わりました。一つ目は航空機や列車用の新しいプレーキ材の開発に関するもの、二つ目はコーティングをした鋼の転がり疲労に関するものです。前者はEU圏内10カ国程度の企業や大学と、後者はイギリス国内の企業との共同プロジェクトで、リーズ大学の関係者のみならず多くの方々とともに研究開発を進めました。仕事の面では多くの方々に手を貸して頂きながら、無事1年間勤め上げることができました。3、4月に実施されたプロジェクトの中間審査では高い評価を受けることができ、いずれの研究も継続できたようで胸をなで下ろすことができました。

さて、イギリスといえばまず思い浮かぶのが紅茶です。朝はアッサム、昼はダーズリンなど、皆さん食事やティータイムごとにお茶の葉を変え、様々な香りや味を楽しみます。ところで、このティータイム、少々やっかいな風習でもあります。というのも食事とは別に午前と午後それぞれゆったりとティータイムをとるのですが、その時間帯が人によってまちまちなのです。渡英直後の私はこの時間帯がわからず、人気がないオフィスで書類や図面を手にしながらかつて右往左往したものです。この習慣に慣れるまで少々時間がかかりましたが、あちらは時間がゆっくり流れており、急がず・慌てず・あせらずにじっくり考えてから行動する、というスタイルを理解してからはそれほど困ることはなくなりました。ただ、依頼した仕事をたびたび忘れてくれる(後回しにされている?)のには辟易しましたけれど。

最後になりましたが、今回の滞在の機会を与えて下さいました機械工学科の村上教授をはじめ教職員の方々並びに関係各位に感謝いたします。

